



《発行所》

青山同窓会

〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町2-635  
新潟県立新潟高等学校内  
TEL 025-266-5268  
FAX 025-266-5268

《編集・発行人》

長谷川 義明

《印刷所》

株式会社第一印刷所  
〒950-8724 新潟市中央区和合町2-4-18  
TEL 025-285-7161  
FAX 025-282-1776

# 母校創立百二十周年を迎えて

青山同窓会会長

長谷川 義明 (61回) 53卒



新年おめでとう御座います。青山同窓会会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年は母校創立百二十周年の記念すべき年に当たり、式典、講演会、記念演奏会、電子黒板等整備事業、名簿発行、記念祝賀会など諸事業を同窓の皆様をはじめ、保護者や教職員など学校関係の皆様のご協力を頂き、無事に実施することができました。ご協力に深く感謝申し

上げる次第です。現在百二十年史の発行準備が進められており、これをもって完了ということになります。

120年の長い歴史の中で多くの困難も会った中で、約4万人にも及ぶ若き有能な人材を世に送り出してきた新潟高校の偉業に敬意を表して、式典においてご挨拶を申し上げてまいりま

## ご挨拶

新潟県立新潟高等学校は明治25年に中学校令に基づく新潟県内最初の中学校として開校した新潟県立新潟中学校を創立として居ります。

爾来120年にわたって約4万人の卒業生を送り出し、その多くは全国あるいは世界の各地にお

いて、実に多様な分野で活躍し、地域社会に大きな貢献を致して居ります。

歴代の校長を始め教師の方々が、若者たちに真摯に向き合い、たゆむことなく人材育成に取り組み、これをもって完了ということになります。

創立以来の「質実剛健」、「自主自律」、「文武両道」を目指す校風の歴史は同窓生一同が誇りとするものであり、現在でも受け継がれているものであります。現役の生徒達も難関大学への進学

者も多い一方、運動部や各クラブの活動も活発に行われ、若者達はその持てる多くの能力を鍛える場として充実した高校生活を送っていることを嬉しく思います。現代では、グローバル化の進展に伴って国際的に活躍できる人材の育成が求められています。新しい時代の要請に応えうる人材として後輩たちの活躍を期待するものであります。

百二十周年の記念すべき年に当たり、学校、PTAおよび同窓会が共同で「百二十周年記念事業実行委員会」を設立し、記念事業の企画準備を進めて参りました。記念式典の挙行、共に同窓生でもある国際的に活躍している石丸由佳さんによるパイ

ブオルガンの記念演奏並びに大阪大学名誉教授、會津八一記念館長の神林恒道氏による記念講演、また同窓会名簿の発行と百二十年史の編集発行、記念祝賀会、さらに学校教育環境の整備として各教室に電子黒板の設置など充実を図ったものであります。これらの必要経費などにつ

きまして同窓の皆さんにご協力をお願いいたしました。幸い計画を上回るご協力を頂くことができました。ご関係の皆様、母校への熱い思いに敬意を表します。とともに深く感謝申し上げます。

120年の歴史と伝統の上に立つて新潟高等学校がさらに発展し、これからの人類社会に貢献する有能な人材を送り出していただくよう期待申し上げます。

平成24年10月20日  
新潟県立新潟高等学校  
創立百二十周年記念事業実行委員会  
会長

青山同窓会会長 長谷川 義明

※00卒=卒業した西暦の年数を示したものです。

## 青山同窓会新年会のお知らせ

青山同窓会会長 長谷川義明

明けましておめでとうございます。恒例の青山同窓会の新年会を開催いたします。普段会えない方々と大いに歓談していただきたいと存じます。開催要領は下記のとおりです。各期幹事の皆様からも同期の方々に連絡をしていただきたいと存じます。また参加を希望される方はお誘い合わせて事務局までご一報ください。

青山同窓会事務局：TEL / FAX 025-266-5268  
青山同窓会電子メールアドレス niigata\_aoyama@yahoo.co.jp

### 記

日時：平成 25 年 2 月 14 日 (木)  
受付 午後 6 時  
《新年会は生徒の吹奏楽の演奏はありません》  
開宴 午後 6 時 30 分  
会場：ホテルイタリヤ軒 TEL 025-224-5111  
会費：6,000 円  
申し込み締め切り：平成 25 年 2 月 5 日 (火)

※ 平成 25 年 2 月 7 日 (木) ~ 8 日 (金) は推薦入試の為、事務局はお休みします。

# 新年のご挨拶

参議院議員

佐藤のぶあき (74回) 66卒



青山同窓会の皆様、明けましておめでとうございます。今年こそ明るい希望の見える年となるよう祈りながら、年頭の所感、ご挨拶を申し上げます。

災害に強いふる里をつくらう、ふる里をもつと安全にもつと住みやすく、と国土建設の仕事についてから、早くも40年を越えました。この間、建設省、国土交通省を経て、参議院の全国比例区での5年を含めて、一貫して国土、ふる里のインフラづくりに汗をかいてきました。新潟をベースとした全国区の職員として、全国を訪ね、そのま

かここへ上げて、青山同窓会の皆様と共に更に新潟の良いところを見つけ出し、つくり出していきたいものです。

例えば海の身近さです。県庁所在地でまちなん中から、歩いて海水浴場に行けるのは新潟だけです。新潟市民にとって、あまりにもあたり前のことですが、新潟以外の人達にとつては、にわかには信じがたい話なのです。そして佐渡を望む海岸に多くの眺望客達が集う風景も他の大都市には珍しい、自然に恵まれている姿です。

また自然の恵みです。信濃川、阿賀野川でも鮭が遡上し、漁業活動、繁殖事業が営まれていることは、むしろ市民でも知っている方が少ないかも知れません。もちろん漁業として成立する訳は無く、漁業組合は自然保護のボランティアです。

更に食物の豊富さとうまさはビックリものです。新潟のカニはうまくて安い、味は越前ガニと一緒ですよ、と言っても「ホントにうまいのか」と疑われることが多い。ル・レクチュも、ポツポツ焼きもこんなにうまいも

のは無い、と思う食物が、残念ながら全国の人には全くと言って良い程知られて無い。私も新潟の宣伝マンとして、また一層の魅力ある新潟づくりの為に活動します。

# 新春ごあいさつ

衆議院議員  
鷲尾 英一郎 (103回) 95卒



新年あけましておめでとうございます。

青山同窓会のみなさまのお陰様で、辛くも3度目の当選を果たすことができました。衷心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、突然の解散総選挙を経て、年が明けましたが、日本のおかれている内外の情勢は誠に厳しく、政治の混迷が日本を蝕んでいるのではないかと危惧しております。

高齢化・少子化・財政難は経済成長を阻み、日本の経済的な立場は相対的に低下しました。

今年こそ日本の雇用、経済が再生し、デフレ脱却するように、そしてふる里新潟が日本海側の拠点として大きく飛躍する幸多き年となるよう心から祈念致します。

経済力をもつて国力を保つてきた日本は、外交上の存在感や交渉力も国力の減退とともに衰えています。

政治リーダーの役割は今こそ高まっています。混迷の時代にあつては本物が必要です。芸能人化した政治家や、評論家としての政治家は、国家にとつていかなるものか。政治家の仕事は、詰まるところ、国家感・歴史感・教養・胆力・人脈を備えた上で、どんな状況においても冷静沈着に国家としての決断を行い続けることだと考えております。そのようなリーダーとバラエティー番組に出演することで悦に入っている政治家や、当事者意識がなく評論だけしている政治家とは区別すべきです。国民の政治家を見る目が厳しく問われる時代になりました。

野放図に行ってきた国の借金に対して、耳障りの良いことを

言うだけではどうしようもありません。原発政策、社会保障制度改革、経済連携協定、大学認可問題……枚挙に暇がありませんが、これらは全て解決されねばならない課題です。これらを変えざるには、一定期間が必要です。瞬間的な成果を求めても決して得られません。

一時の感情や空気で政治を選んでしまつては、政治は漂流してしまいます。政治や政党を育てる為により多くの本物の政治家を選びかつ、実現のための一定期間が必要ではないかと感じております。

混迷の時代ですが、丈夫健児として恥ずかしくないよう、精一杯努力して参りたいと存じます。平成25年が青山同窓会のみなさまにとって佳き年になりますよう衷心より祈念申し上げます。新年の挨拶いたします。



# 新年のご挨拶

衆議院議員

石崎 とおる (110回) 02卒



明けましておめでとうございます。年末の衆議院選挙にて初めて立候補し当選させて頂きました110回卒の石崎とおると申します。宜しくお願致します。

選挙戦では青山同窓会有志の皆様より多大なるご支援、ご尽力を頂戴致しました。地盤も無く知名度も低い私にとりまして、新潟高校OBの皆様方からのお力添えは何よりの励みであり、集票の原動力ともなりました。

諸先輩、同級生、後輩の皆さんからのご支援無しには、到底当選はおぼつかなかったことと存じます。

衷心より御礼申し上げます。こうして文章を以て同窓の皆様にご挨拶させて頂くのは初めての機会ですので、私の簡単な経歴を述べさせて頂きます。

み込んでしまおうでしょう。

この数カ月、「若い人が一番頑張らないといけない。新潟のために頑張る」とたくさんの方々から励ましの声を頂戴しました。新潟にそして日本全体に漂っている閉塞感を打破する期待が、若い世代に求められていることを肌身で感じた次第です。

かつての日本は成長の実感で歩いて行くことのできる国でした。

国民が未来を信じ前を向いて歩いて行くことのできる国で

もう一度日本という国に希望と自信を取り戻したい、国民が明るく前向きな気持ちで生きていける日本にしたい、それが私の目標です。そのために政治の世界でできることがあるはずだ、と思っております。

私は今年29才の若輩者ではありますが、今ひしひしと感じているこの危機感と共に生き、多くの皆様のお言葉に耳を傾け、実現する政治を目指して日々研鑽を積んでいくつもりです。

青山同窓会の皆様方からの叱咤激励と熱いご声援とを心から祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせて頂きます。本当にありがとうございます。そして今後とも何卒宜しく申し上げます。

# 新春挨拶

新潟市長

篠田 昭 (75回) 67卒



青山同窓会の皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

新潟市が大合併して8年、政令市に移行して6年近くになります。おかげさまで新市の一体感の上に、各区の特性を活かした競い合いが徐々に出てきたように思います。

国ではいま、地方制度調査会で大都市制度を初めて本格的に議論しています。新潟市も今後行政区にさらに大きな裁量権を持つてもらうなど、目指す大都市制度について具体的な選択肢を提示し、市民の皆さまからご意見をいただきながら、国に改革を求めていきます。

具体的施策では、3・11大震災で新潟が大きな救援拠点となった実績を踏まえて「防災首都」を目指します。残念なこと

業研究センターが6月にオープン、新しい「フードバレー」を形成していきます。

鳥屋野潟南部の食育花育センター隣接地には子ども創造・動物ふれあいの両センターが春に開設され、親子連れが一日楽しめるゾーンになります。またなか再生やアニメのまちづくりも前進させ、交流人口の増加につなげ、「行ってみたいまち・新潟」づくりに挑戦しますので今年もよろしくお願いたします。



# 新潟県立新潟高等学校 創立百二十周年記念事業報告

## お礼のごとば

学校長 草間 俊之

青山同窓会の皆様方には、本校創立百二十周年記念事業の実施に当たり、格別の御尽力を賜り、感謝申し上げます。

10月20日の記念式典、そして記念講演会及び演奏会は、いつまでも生徒の思い出に残るものと思います。また、記念事業の一環として設置していただきました電子黒板ユニットは、今後、学力向上における本校の新たな飛躍に寄与するものと確信しております。

今後とも、生徒とともに、教職員一同、青山120年のよき伝統を後世に引き継ぐべく、頑張つてまいりたいと思っております。

最後に、青山同窓会の今後益々の御発展を祈念申し上げて、御礼とさせていただきます。

## 式辞

新潟県立新潟高等学校創立百二十周年記念式典に当たり、新潟県教育委員会様をはじめ、多数の御来賓の皆様方の御臨席を賜り、心から御礼申し上げます。有難うございます。

ここに本校創立百二十周年記念式典を挙行できますことは、青山同窓会をはじめとする関係者の皆



様は勿論のこと、生徒、保護者、教職員にとりましても、誠に有難きことであり、大いなる喜びであります。創立以来、これまで新潟高等学校を支えていただきました全ての皆様方に、謹んで、衷心より敬意と感謝の意を表すのであります。

したものであります。爾来、幾多の変遷を経て、明治大正、昭和、平成に渡り、その時代の波動を受けながらも、設立当初の使命に込め、この青山の地で、理想に燃え、真理を求めて已まない真摯な若者の学舎として、これまで4万人の有為な人材を国内外の各界に輩出しつつ、120年の歴史と伝統を積み重ね、今日に至っております。

本校創立百十周年からの10年を顧みれば、昭和23年に、通信教育部として発足した通信制課程は、本県、勤労学生の学びの原点として、厳しい社会生活の心よりどころとして、校歌をともしにしてまいりましたが、平成18年3月をもって、新潟翠江高等学校に統合され、惜しまれながらも、本校での58年の歴史に幕を閉じたのであります。

現在の新潟高等学校は、勉学においては、今春の東京大学や京都大学など、いわゆる難関大学と医学部医学科への入学者数では、全国公立高校の上位に位置するなど、全国にその名が知られております。

部活動においても、2012北信越かがやき総体では、陸上競技部が、女子800メートル、全国三位に入賞し、更に、先般の岐阜国体では、全国優勝を飾りました。また、将棋部は、全国高等学校竜王戦で二連覇を達成し、加えて、新潟県アマチュア名人を獲得したところであります。

他にも、多くの部が全国大会に出場するなど、勉学に追われ、限られた時間の中ではありますが、日々、逞しく、活動しております。また、伝統行事の青陵祭では、雨の中の全校応援、緑あつて青山に集う青陵健児が、心を一つにして歌うますらが、青山に併したとき、忘れていた豊かな感情が蘇ってきたのであります。



電子黒板を使った授業風景

# 21世紀型学習環境の整備 —コンピュター化とエコ対応—

実行委員 事業部  
横堀 真弓 (91回)

83卒

創立百二十周年記念事業の大 きな柱である標記事業の設備工事が、8月17日に完了し、全30教室に、エアコン効率の良い窓フィルムと、電子黒板を始めとするICT機器設備が整えられました。

現在、ICT設備を用いた新たな授業が展開されています。県内初であり全国でもあまり類をみない画期的なとりくみです。

電子黒板の導入により、視覚に訴え、生徒の理解を高めることができます。また、一つのテーマに教室全体が集中し、生徒はますます生き生きと授業に臨んでいます。このよう な恵まれた学習環境を実現してくださりました青山同窓会の大きな力に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 創立百二十周年 記念式典・祝賀会、盛大に挙

実行委員会 行事部

古沢 俊明 (88回) **80卒**

平成24年10月20日(土)、創立百二十周年記念式典・講演会・演奏会が新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)で、祝賀会がホテルオークラ新潟で、それぞれ盛大に挙行されました。

秋晴れの下、りゅーとぴあで行われた記念式典には、全校生徒と青山同窓会員を中心とした1500人余がコンサートホール

の座席を埋めつくしました。草間俊之校長の式辞、長谷川義明実行委員会会長(青山同窓会会長)の挨拶のあと、北村泰

作新潟県教育委員より祝辞、小柴多郎前生徒会長のことばと、式典は進められました。式典後、同ホールにおいて、神林恒道氏(大阪大学名誉教授・会津八一記念館館長・65回)の講演「会津八一の美学」、さらに石丸由佳氏(パイプオルガン奏者・11回)の演奏「百里流れて」新田二つの校歌と八つの応援歌によるクラージュ風幻想曲ほか」がひきつづき行われました。また、同日夕刻、ホテルオー



記念講演会 講師 神林 恒道さん

クラ新潟において、250名余の参会者を得て祝賀会が開催されました。ソプラノ・今井あい氏(105回)の演奏のあと、長谷川義明会長、草間俊之校長の挨拶、篠田昭新潟市長の祝辞とつづき、風間士郎青山同窓会副会長の乾杯により祝宴が始まりました。歓談後は新田校歌・応援歌斉唱とつづき、山内春夫青山同窓会副会長の万歳三唱で閉会となりました。

すべての事業・行事が無事に、また成功裡に行われましたことに、改めて御礼を申しあげ、式典・祝賀会のご報告といたします。

なお、神林恒道先生ご講演の要旨を次号(7月発行)に掲載する予定です。式典の写真は23ページに掲載しています。

## 新田二つの校歌と八つの応援歌による

## クラージュ風幻想曲《百里流れて》

作曲家・上越教育大学大学院教授

後藤 丹 (79回) **71卒**

やたらと長いタイトル。これは、昨年の10月20日に新潟市りゅーとぴあで行われた百二十周年記念のパイプオルガン・コンサートで石丸由佳さんに弾いていた曲の題名です。石丸さんは、シャルトル国際オルガンコンクールでグランプリを獲得した同窓の若いオルガニスト。私は彼女が中学生の頃からよく知っていました。

ドイツ在住の石丸さんから、そのコンサートで校歌を弾きたいから編曲してくれないかと依頼され、仕事に着手したのが昨年の夏。当初は新田二つの校歌(「玲瓏の天」と「百里流れて」



記念演奏会 パイプオルガン演奏者 石丸由佳さん

に逸脱した大作となりました。まず足鍵盤による保続音上に「天は晴れたり」と「嗚呼、青陵に精気あり」のモチーフが絡み合いながら始まり、やがて、さまざまな応援歌が呼応しながら登場。一通り盛り上がったところで旧制の校歌が朗々と二度繰り返され、その間には「ますらお」が響き渡ります。短いカデンツァを挟み、いよいよ「百里流れて」のメロディが力強く奏されますが、最大のクライマックスはその後で、新田二つの校歌が対位的に組み合わせられ、同時に鳴り響く部分。ここで旧制中学と新制高校の融和を象徴しようと思いましたが、石丸さんは私の意図を完璧に理解し、見事な演奏をされました。会場の皆様も、感動されたかどうかはともかく、面白く聴いてくださったようで、苦労して作った甲斐がありました。

# 生徒代表の言葉

## 「丈夫」の力

3年 小柴 多郎

さわやかな青空の広がる秋の佳き日に、私達在校生は新潟高校をここまで支えて下さったご来賓の方々、そして誇るべき歴史をつくって下さった諸先輩方とともに、新潟高校創立百二十周年を祝うことができ、大変うれしく思っております。

様々な困難も乗り越えて120年の歴史が作られたということを知り、よりいっそうこの力を感じることができました。そしてまた、新潟高校は「丈夫」の力があるからこそ新潟高校と呼べるのだと思いました。

ところで、私はこの式典に参加することになりました。それは、新潟高校の百二十周年を祝うために、私達在校生は何をしたらよいのか。ということなのです。この式典において、新潟高校の歴史に思いをはせ、素晴らしい講演や演奏に感動し、心豊かに楽しむだけでよいのでしょうか。それはそれで十分意義あることだと思えますが、私はもう一つの意義を考えました。

私達在校生は百二十周年を迎えるにあたって、新潟高校の歴史について振り返る機会をいただきました。歴史を振り返る時、何かを感じるのが人間ということなのです。在校生の皆さんは、この百二十周年に何を感じるのでしょうか。知らなかつた事実を知って驚く人、懐かしさを感じる人、誇りを感じる人。色々な人だと思えますが、私は、新潟高校は、「丈夫」達の力によって成り立っているということを感じたいと感じました。青陵祭や青山祭に代表される行事や、部活動での活躍、あるいは、日々の生活の中でも「丈夫」の力を感じる場面は多々あります。しかし120年の歴史を振り返るとき、「丈夫」の先輩方の力によって、戦争・火事・地震のような

り取り、次の一年間の目標を立てて新たな一歩を踏み出します。つまり、自らの生まれた日に、自分の人生に節目をつけて新たなスタートを切るというのが「祝う」ということなのです。これと同じことが、新潟高校の百二十周年にも当てはまると思います。つまり、今日私達がすべきことは、《初心にかえって歴史を振り返り、誇りをもってお互いをたたえあい、夢を追いかける力をもらって、「丈夫」の力として明日につなげること》なのではないでしょうか。私は新潟高校が大好きです。

### 同窓会総会報告

## 平成24年度青山同窓会総会

現職員 鈴木 信行 (99回) 91卒

昨年7月12日(木)、同窓会総会がANAクラウンプラザホテルを会場に開催され、出席者480余名を数える盛会となりました。

総会に先立ち行われたミニコンサートでは、恒例の本校吹奏楽部に続き、今年はいよいよ「小林史佳さん、101回」による演奏が披露され、梅雨空を忘

その新潟高校が新たな一歩を踏み出そうとしています。私達在校生は、また明日から先輩方より受け継いだ「丈夫」の力という伝統を守るとともに、夢に向かって邁進していきたいと思えます。これからも皆様方に新潟高校を見守っていただけると幸いです。そしてまた10年後、今度同窓生として一層新潟高校に誇りをもって集い、皆様とともに「祝える」よう努力していきたいと思えます。

平成24年10月20日  
新潟県立新潟高等学校  
生徒代表 小柴 多郎

百二十年史の刊行、同窓会名簿の発行等々の事業が順調に進められていることが、長谷川会長より報告されました。続く懇親会は、渡邊毅実行委員長(85回)による開会宣言の後、村山朋彦さん(95回)の司会で進みました。来賓の篠田昭新潟市長(75回)より「新潟の存在感が増す昨今、新潟の文化の力を益々発信すべき」とのご挨拶をいただきました。佐藤信秋参議院議員(74回)、鷲尾英一郎衆議院議員(103回)からのメッセージ披露、君英夫さん(67回)の指揮による「旧校歌」新校歌の斉唱の後、敦井栄一副会長(69回)のご発声で乾杯、賑やかな歓談が始まりました。

懇談の合間には最多出席期の表彰、お楽しみ抽選会等が実施され、期を超えた交流に一層の花を添えまし



# 東京青山同窓会平成24年度総会

校内幹事 櫻井麻利子 (94回) **86卒**

11月9日(金)ANAインターコンチネンタルホテル東京にて標記の会が開催されました。新潟からは、風間士郎青山同窓会副会長(64回)、富山修一幹事長(75回)、市川亮副校長、校内幹事櫻井の計四名が参加しました。

総会では榎本飛鳥さん(117回)の司会で行われました。猪口孝東京青山同窓会会長(70回)の挨拶後、日下部朋子事務局長(82回)より会計報告、佐藤茂会計幹事(77回)より会計報告があり、承認されました。



文化部も全国大会で上位入賞を果たしたことなどが紹介されました。

続いて寺田秀夫さん(50回)の乾杯の御発声で懇親会が始まりました。坂井敬さん(64回)の司会により和やかに進められ、エキシビジョンとして「64回生青春の軌跡」が披露されました。新潟高校や世の中の動きを振りかえる坂井さんのすてきなナレーションと共に、ステージに並んだ13名の64回生が、「赤とんぼ」「雪の降る町を」「惜春会」を合唱されました。同窓会らしい心温まる歌声でした。

また、宮本真理子さん(120回)から、「放送部を応援する会」を作りたいとの提案がありました。

最後に、学年幹事(84回)の島津孝さん、星野紹英さんに促されて若手がステージに上がり、宮本真理子さん、池田和史さん(118回)の首頭で校歌・丈夫を斉唱し、太田裕東京青山同窓会副会長(71回)の閉会の辞でお開きとなりました。

約90名が世代を超えて親交を深めることができました。準備にご尽力くださった学年幹事および事務局の皆様深く感謝申し上げます。

記念事業への協力に対する御礼の挨拶がありました。続いて、櫻井校内幹事からは、休み時間に職員室の前が教師に質問しようとする生徒たちで混雑するなど、生徒たちの学習意欲が昔と比べて格段に高まっており、進学の状況にも表れていることなどの紹介がありました。

## 東北青山同窓会

### 第2回総会を開催

東北青山同窓会幹事

田村 岳裕 (97回) **89卒**

東北青山同窓会は「東北6県に在住または勤務したことのある同窓生」の親睦を深めることなどを目的として、東日本大震災から半年後の一昨年10月15日に発足しました。

会則の改正と平成24会計年度収支予算を審議しました。

総会後の懇親パーティーの進行役は、片桐一夫代表幹事(86回)。冒頭、濱田会長より、東日本大震災からの復興や、今後の東北地方発展のための課題についての熱い想いなどの挨拶がありました。また、来賓の長谷川義明青山同窓会会長からは、創立百二十年記念事業の紹介と

第2回総会は、昨年9月22日(土)に仙台市内で約50名の参加を得て開催。濱田敏克会長(71回)が議長となり、平成23会計年度収支決算報告のあと、

ムスリップしたかのような大変な盛り上がりとなりました。

第3回総会は、来年秋頃開催を予定しております。より多くの皆様のご参加を心待ちにしております。なお、懇親パーティーの様子は東北青山同窓会ホームページでも紹介しておりますので、是非ご覧ください。





## 講演 2

「夢はできるだけ大きく、  
信じた道を！」  
よこざわ けい子さん (79 回)

## ○声優を志す

両親の「娘にはきれいな言葉を話させよう。」という思いから、小3でNHK児童劇団に入団し、劇団解散後も引き続きラジオドラマにずっと出演していました。

ですから、高3の進路を決める時期には、「声優になりたい！」という気持ちに自然となっていました。でも、「どうやったらなれるのだろうか？」と、ラジオドラマのディレクターに自分の夢について相談したところ、「君の声では無理だね。」との忠告。私の事を思っただけのありがたい忠告でしたが、夢を諦めたくありませんでしたので、無視させていただきました。

## ○大学に進学、夢をかなえる

声優を目指して進学した日本大学芸術学部放送学科は、いざ入学してみると、ディレクターやアナウンサー等を育てる教育を行っていて、声優は育てていなかったのです。困ったなあ、と悩んで探し出したのが俳優生活協同組合の養成所。大学と養成所に両立して通う学費を補うため、住み込みのアルバイトもしました。

チャンスは卒業目前に訪れ、テレビドラマのオーディションに合格。まずは、テレビなど映像の仕事からのスタートとなりました。しかし、声優になりたいという夢は諦めていないので、事務所に希望を伝えたところ、また無理だとの忠告。もちろん、このありがたい忠告も無視させていただき、チャンスを待ち続け、ようやくアグネス・ラムさんの声の仕事を引き付けに、CM・アニメーション・洋画吹き替えなど声の仕事が次々になりました。

## ○出演した代表作品

「ドラえもん」のドラミちゃん役や、「お母さんといっしょ」にこにこぶんのびっころ、「エスパー魔美」の魔美ちゃん、「はいからさんが通る」の紅緒役などなど。

私の中で1番大切に思っている仕事は、「天空の城ラピュタ」のシータ役です。

皆さんにいつまでも愛される素晴らしい作品のお仕事が出来て、嬉しく思っています。

## ○次のステップ

声優としての仕事を続けているうちに、ナレーターもやりたい、という気持ちになってきたのですが、またまた事務所からは無理だとの忠告。でも、「今まで何回無理だと言われても諦めずに夢をかなえてきたので、今度も絶対にあきらめない！」と、この忠告も無視させていただき、独立。自分で営業し、それからはナレーターの仕事もたくさんするようになりました。

## ○自分が大きくなるために選んだ新たな道

仕事も順調で忙しい日々を過ごしつつも、一人で活動していることに疲れを感じ、ふとプロダクションに入ってしまうかな？と思った時期がありました。そんな気持ちの時に神社でひいたおみくじが、何と「大凶」。びっくりして、これは「楽な道を選んでダメだよ、前向きに行きなさい」と言う神様のお告げだと思い、自分をもっとビッグにしようと、自分自身でプロダクションを立ち上げ、声優・ナレーターを育てるスクールも作りました。

その時に、前向きに生きることを絶対に忘れないように書いたのが、次の詩です。

## ○自作の詩「春に生まれたかかし」の朗読

かかしは、そこにいればいずれ春が来るのもわからずに、

冬の木枯らしに乗って春を求めて飛んで行きました。自分がいいと思った事は人から何を言われようと前向きに進んで行きたい、そのような選択をする人間になっていきたい、という気持ちを込めています。

しかし会社を経営し、人を育てる事は「自分が、自分が」では上手く行きません。社長・先生業に専念するとともに、現役からは遠のくようになりました。

このように「自分が大きくなりたい」という目標からすると大誤算でしたが、表現者という観点では、現役のころよりももっと成長できたように思えます。

そのきっかけになったのが、文章を書いたことでしょうか。表現で大切なのは、テーマを伝えることです。そこで、テーマを間違えて指導しないように、表現の指導をする教材や脚本を自分で書くようにしたのです。その結果、声優や女優でいた時よりも、表現について深く考えるようになり、表現力がアップしたと思います。

例えば、先程の詩で、自分の昔と現在の表現の違いをお聞かせしましょう。

## ○読み聞かせについて

1. ただきれいに詩を読む。
2. 気持ちを込めて詩を読む。
3. 色々な五感を使って読む。

昔は2くらい表現しかできなかった私ですが、人を教える立場になり、文章を書くようになってからは「3.五感を使って」情感を表わせるような朗読が出来るようになりました。自分の読みやすいようにではなく、書き手の気持ちを汲み、また、どんな気持ちなのかで表現方法も変わってきます。おそらく、一人の声優として活動していたままだったら、書き手の気持ちを表現しようとか考えずに外側だけを見て読んでいたかもしれません。

最後に私の処女作を朗読いたします。まだまだ未熟な私ですが、現在の私の表現をお聞き下さい。

## ○処女作「ゆきんこゆうりん」(アプリ絵本)の朗読

(ストーリー：目が見えないモリーはサンタさんからプレゼントされた「目が見えるようになる薬」をつけようとはしない。モリーに綺麗な雪景色を見せてあげたいと思ったゆきんこのゆうりんは、その薬をなんとかモリーに付けてもらうようお願いするのだが…)

娘が小さい頃、私は仕事が忙しく、ゆっくり読み聞かせをしてあげられないかわりに書いた作品で、「ゆうりん」は娘の呼び名です。こぼれ話ですが、最初書いた時はゆうりんが死んで終わっていたのですが、「可哀そうな話はいや」と娘に言われてしまい、最後に涙となって生き返るというハッピーエンドの結末にしました。

## ○最後に

スクール生の指導、作品の執筆や演出など表に出ない仕事が多くなっていましたが、最近びっころが復活して、時々テレビに出るようになりました。アイドルユニットを組んで来年の紅白歌合戦に出演するかも！びっころを見たら、是非私の事も思い出して下さい。「夢はできるだけ大きく、信じた道を！」 (坂井奈津子)





# 第 9 回 青山学術文化講演会開催報告

会報編集委員 坂井奈津子 (96 回)  
樋口真佑子 (113 回)

昨年 11 月 27 日第 9 回青山学術文化講演会が、新潟高校視聴覚ホールで開催されました。

今回の講師は次の方々です。

- 1 西村宏子さん (63 回)  
新潟医療福祉大学 特任教授  
米国テネシー大学医学部 名誉教授
- 2 よこざわけい子さん (79 回)  
株式会社ゆーりんプロ 代表取締役  
よこざわけい子声優・ナレータースクール  
学校長

以下、それぞれのご講演について要旨を報告します。



## 講演 1 「成人病は胎生期から始まる —動物実験から臨床まで—」 西村宏子さん (63 回)

### はじめに

成人病は年をとってからかかるものではなく、その原因の一部はまだ赤ちゃんが母親のお腹の中にいるときにある。体力、臓器、機能の衰えにつながる「加齢」を促進する要因としては、

(1)遺伝的素質、(2)環境と生活習慣、(3)胎生期の環境と“プログラミング”が考えられるが、(3)は「成人病胎児期発症説」によるもので、成人病／老年病の重要な要因となっている。胎生期に低栄養、低酸素など異常な胎内環境に曝されると、胎児は発育が遅れ、出生時体重が低くなる。更に胎児は異常環境に反応して代謝・内分泌・生理機能などを異常にプログラムし、高血圧、糖尿病、血管障害等の発症率や、社会的適応障害の発現が成長後に高くなる。しかし、その機序解明や対策は不備な点が多い。

### 胎生期の栄養障害と低出生体重の現状

近年、先進国における低出生体重児 (2500 g 以下) の発生頻度が上昇しており、日本では 5.2% (1980 年) が 9.6% (2008 年) に増加した (人口動態統計) (図 1)。その原因として、(1)高年齢の出産 (特に初産) の増加、(2)医療技術の進歩にともなう未熟児救命の増加、(3)妊娠中の過剰なダイエットなどが挙げられている。さらに若い女性 (中学生、高校生を含め) の痩型嗜好にともなう骨格、筋肉の発育不全が、将来の胎盤形成不備の原因につながっている可能性がある。実際に最近 10 年間に、小学校 (高学年)、中学校、高校女生徒の急激な体重減少が見られている。それに相関して、学校内の特別支援学校に通う児童生徒数が増加している。また従来、成人病、老年病である巣状糸球体硬化症 (体液を濾過し尿を作る腎の糸球体が固くなり正常に働かなくなる) が小児に増加する傾向にある。これらは、個人や家庭の問題だけでなく、教育、医療、福祉を含め社会的に重要な問題を提起する。

### 胎児のプログラミング

Baker ら (1989 年、イギリス) は、虚血性心疾患 (心筋梗塞など) による死亡率は、出生時体重の低い人ほど高いことを報告し、この説はその後疫学的、実験的に証明された。「プログラミング」とは、胎児の環境や胎生期の出来事に反応して、胎児の組織の形質や機能が永久的に変化し、成長後に疾患に対する感受性が変わることである。プログラミングの成因としては、遺伝子配列の変化というより、遺伝子から情報が発現していく過程や遺伝子環境の変化 (epigenetic modification) が大切であると考えられ

ている。つまり、栄養障害、ストレス、低酸素といった状態が胎生期の大切な時期に起こり、それに遺伝的素質が加わって遺伝子環境の変化につながり、疾患になる感受性が増加するというメカニズムである。

### 動物実験

胎生期、特に妊娠後期における胎児環境の異常に起因する出生後の異常は、数多くの臓器に報告されている。成長後の腎糸球体数 (体液の濾過や体液量のバランスに大切) が正常より少なく腎疾患を含めた諸疾病にかかりやすいことが、重要な所見の一つである。

上記の所見を裏づけるための動物実験として、日本ウズラの卵から卵白の一部を無菌的に除去することにより胎生期の栄養障害を起こし、加齢とともに早期の糸球体硬化症を示すかを検討した。トリのエンブリオは哺乳類とは異なり、母体の栄養状態やホルモンの影響を受けずに発育し、環境の調節が容易であるという利点がある。

結果として、卵白の一部を除去したウズラは胎生期に栄養障害を起こし発育が遅れ、孵化時の体重が正常群より低かった所見を得た。孵化率が低下し、成熟した卵白除去ウズラは腎糸球体数が正常より少なく (糸球体のサイズは大きい、代償性肥大)、水分保持も悪かった。また、栄養障害ウズラの腎糸球体ではメサンギウムに異常物質 (繊維性) が溜まり、加齢とともに増加した。

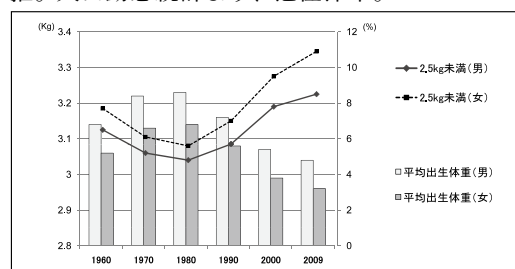
### 臨床所見

新潟大学医歯学総合病院小児科の腎グループ (池住洋平講師) と共同研究を行い、低出生体重児と小児腎疾患 (特に腎糸球体硬化症) の相関を 1993 ~ 2009 年の間に腎生検を行った 207 例を用い検討した。小児で腎糸球体硬化症と診断された症例の 33% が低出生体重児であり、尿の形成に大切な腎糸球体上皮細胞数の高度の減少が見られた。所見は動物実験の結果に類似しており、低出生体重は成長後、腎疾患にかかる危険因子の一つと考えられる。

### 今後の方針

低出生体重児の増加を防ぐには、今後どのような手段、方法を取ったら良いか。まずは、若い女性が健康的な身体になり、しっかりした胎盤を持ってもらうことが大切である。近ごろ痩せ過ぎファッションモデルが問題になっているが、「痩せたい気持ちだけで食事をおろそかにすると、肉体だけでなく精神の豊かさも失いかねない」(「ヴォーグ」日本版編集長、渡辺三津子氏)。今後の方針のまとめとして、(1)低出生体重児と種々の疾患の関係を地域で、また全国的な規模で調査する、(2)医療機関や保健所による妊婦の正しい栄養指導、(3)情報伝達するメディアの利用、(4)個人の家庭を始め、小学校、中学校、高校保健教育をとうして健康な心身の育成と生活の充実をはかるなど、皆で考えていきたい。(樋口真佑子)

図 1：本邦における平均出生体重と低出生体重児の年次推。人口動態統計より、池住洋平。



平成 23 年度青山同窓会収支決算書  
(自 平成 23 年 4 月 1 日 至 平成 24 年 3 月 31 日)

(単位: 円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
前期繰越金	3,800,309	3,800,309	0	前年度繰越金
<b>I 収入の部</b>				
基本財産会計受入収入	0	3,000,000	△ 3,000,000	
入会金収入	757,200	754,600	2,600	1 年生 1 人 800 円 × 362 人 2・3 年生 1 人 600 円 × 775 人
会費収入	5,500,000	7,877,455	△ 2,377,455	同窓会年会費 1 口 1,000 円
総会収入	3,900,000	3,225,720	674,280	
新年会収入	660,000	738,000	△ 78,000	
雑収入	1,000	12,818	△ 11,818	校歌・応援歌 CD・名簿・校章バッジ代金、預金利息
当期収入合計	10,818,200	15,608,593	△ 4,790,393	
合計	14,618,509	19,408,902	△ 4,790,393	
<b>II 支出の部</b>				
総会費	3,900,000	3,198,470	701,530	
新年会費	660,000	753,530	△ 93,530	
人件費	1,140,000	1,130,700	9,300	職員 1 名、給料、交通費
通信費	1,500,000	2,826,415	△ 1,326,415	会報発送、総会、役員会案内郵便料金、振替料負担金、電話料金
印刷費	500,000	1,487,448	△ 987,448	封筒、振替用紙、総会案内状、はがき印刷代
慶弔費	150,000	79,565	70,435	離任職員饗別、弔電
広報費	1,150,000	1,805,681	△ 655,681	年 2 回発行会報印刷代、学校案内掲載広告代
会議費	600,000	681,566	△ 81,566	
講演会費	250,000	207,611	42,389	学術文化講演会
旅費	500,000	394,675	105,325	
卒業生記念品費	300,000	278,880	21,120	
補助費	1,300,000	1,252,205	47,795	東京同窓会補助 500,000、関西同窓会補助 100,000、東北青山同窓会 100,000、通信制部会補助 100,000、クラブ O B 会補助、青陵祭補助、学校行事補助、激励費
母校支援費	20,000	19,150	850	卒業生連絡ハガキ
退職積立預金	100,000	100,000	0	
諸費	400,000	441,584	△ 41,584	光熱水費、消耗品費、パソコン代金
予備費	2,148,509	0	2,148,509	
当期支出合計	14,618,509	14,657,480	△ 38,971	
当期収支差額	△ 3,800,309	951,113	△ 4,751,422	
次期繰越金	0	4,751,422	△ 4,751,422	
合計	14,618,509	19,408,902	△ 4,790,393	

平成 24 年 4 月 5 日 上記の通り相違ないことを確認します。

監事 江口 良介 ⊕  
監事 渡辺 国夫 ⊕

平成 24 年度青山同窓会会務計画

平成 24 年 7 月 12 日 (木) 総会  
平成 24 年 11 月 17 日 (土) 青山学術文化講演会  
平成 25 年 2 月 14 日 (木) 新年会

※ 同窓会名簿発行 平成 24 年 6 月発行  
※ 新潟高校創立百二十年周年記念事業募金 平成 23 年 7 月～平成 24 年 7 月

平成 24 年度青山同窓会収支予算書

(自 平成 24 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日)

(単位: 円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
<b>I 収入の部</b>				
繰越金	4,751,422	3,800,309	951,113	前年度繰越金
入会金収入	743,400	757,200	△ 13,800	1 年生 1 人 800 円 × 363 人 2・3 年生 1 人 600 円 × 755 人
会費収入	6,500,000	5,500,000	1,000,000	同窓会年会費 1 口 1,000 円
総会収入	3,900,000	3,900,000	0	1 人 6,000 円 × 650 人
新年会収入	660,000	660,000	0	1 人 6,000 円 × 110 人
雑収入	1,000	1,000	0	預金利息
収入合計	11,804,400	10,818,200	986,200	
合計	16,555,822	14,618,509	1,937,313	
<b>II 支出の部</b>				
総会費	3,900,000	3,900,000	0	
新年会費	660,000	660,000	0	
人件費	1,140,000	1,140,000	0	職員 1 人給料、交通費
通信費	1,500,000	1,500,000	0	会報発送、総会、役員会案内郵便料金 振替料負担金、電話料金
印刷費	500,000	500,000	0	封筒、振替用紙、案内状印刷代、データメンテナンス代
慶弔費	150,000	150,000	0	会員慶弔電報、香華料、離任職員饗別
広報費	1,150,000	1,150,000	0	年 2 回発行会報印刷代、学校案内掲載広告代
会議費	600,000	600,000	0	
講演会費	250,000	250,000	0	学術文化講演会
旅費	600,000	500,000	100,000	東京、関西、東北同窓会総会出席旅費
卒業生記念品費	300,000	300,000	0	
補助費	1,400,000	1,300,000	100,000	東京同窓会補助 500,000、関西同窓会補助 100,000、東北同窓会補助 100,000、通信制部会 50,000、クラブ O B 会補助、青陵祭補助、学校行事補助、
母校支援費	20,000	20,000	0	卒業生連絡はがき代
退職積立預金	100,000	100,000	0	
諸費	400,000	400,000	0	光熱水費、消耗品費、パソコン代金
予備費	3,885,822	2,148,509	1,737,313	
合計	16,555,822	14,618,509	1,937,313	

『青山百二十年史』 予約締切迫る

旧制新潟中学から始まる 120 年の校歴はさすがに読み応えがあります。皆さんの所属していた各部の歴史をたどるのも一興かと思えます。

★頒価 書籍 1 万円 CD-ROM 版 2,500 円

★平成 25 年 1 月末までに同窓会事務局へ

‘日本郵便はがき’または‘メール’に①ご住所(送付先)、②ご署名、③卒業回、④ご希望が書籍か CD-ROM 版かをご記入の上お送りください。

はがき宛先 〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町 2-635 新潟高校内

E-mail niigata\_aoyama@yahoo.co.jp

★青山同窓会総会のお知らせ 一予定一★

日時: 平成 25 年 7 月 12 日 (金)

会場: ホテルオークラ新潟

TEL 025-224-6111

会費: 6,000 円

★同窓会ホームページが新しくなりました★

青山同窓会のホームページを一新いたしました。それに伴いホームページのアドレスが下記に変わりましたのでご注意願います。

<http://www.aoyama-dousokai.com/>

★青山同窓会 百二十年名簿発刊★

会員皆様のご協力により平成 24 年 6 月末に発行となり名簿購入希望者及び広告掲載をご協力いただきました方々へ発送させて頂きました。大変ありがとうございました。

これから名簿購入を希望される方は、同窓会事務局へご連絡宜しくお願い致します。部数の可能な範囲で送付させて頂きます。

また、会員名簿には、約 39,000 名の名簿が掲載されております。取扱いにはご留意下さい。

★百二十年記念募金は目標を達成★

百二十年記念募金は目標額 3,000 万円に対して 3,693 万円余と目標を大幅に上回りました。これもひとえに皆様の母校愛のたまものと感謝申し上げます。

なお余剰金につきましては、これから掛かるであろう教室に据え付けました機器の保守・修繕費・消耗品等に充当させていただきます。本当にありがとうございました。

★校歌・応援歌の CD を販売中★

校歌・応援歌の入った CD を販売しています。同期会やクラブ O B 会の時に BGM で流され皆さんから喜ばれています。

一枚……1,000 円

お申し込みは同窓会事務局まで



同窓生訪問

新潟県柔道連盟会長  
立川克雄さん (72回) 64卒 を訪ねて

会報編集委員 小山 佳子 (88回) 80卒



講道館創始者、嘉納治五郎師範の掛軸の前にて

平成24年度から新潟県柔道連盟会長に就任された立川克雄さんにお話を伺いました。

先生は、母校である新潟高校の体育教師として昭和46年4月から昭和63年3月まで17年間勤務されました。ちょうど私の在学時、同じ学年部の担任をしていらしたこともあり、卒業以来三十数年振りにもっと怖そうだった(?)体育の先生にお会いできるのを楽しみにしておりました。

待ち合わせ場所に現れた先生はお変わりない若々しさ。ただし少し違っていたのは、丁寧な挨拶と襟元のチーフタイに、怖そうではなく穏やかな優しさを感

じました。

学生時代から今に至るまで柔道と深く関わってきた先生ですが、柔道を始めたのは意外にも高校生になってからののだそうです。お父様が柔道四段、8つ上のお兄様(64回)も柔道が好きだったという環境で、小さな頃から柔道の話聞き、興味を持っていました。しかし柔道に憧れながらも進んだ中学校には柔道部がなく、野球部に入部するも1週間で退部。次に卓球部に入部。1年間過ごすも試合で1勝もできず退部。その後無所属となり、3年生の秋に新潟市の中学相撲大会に出ると優勝。当時の先生の体格がいかにガツリしていたか容易に想像できます。新潟高校に入ったら柔道をやる!そう思い続けた立川少年は、新潟高校柔道部に入部すると、1年の時から県の強化合宿と呼ばれるほどに。2年の時にはエースとしてインターハイ出場を遂げました。この先ずっと続くことになると先生の柔道人生のスタートは

まさに青山の畳の上でした。その母校で17年に渡り後輩たちに教えたことも、先生にとつてさぞ嬉しいことだったに違いありません。私の同期の代で野球部の生徒が授業だけで柔道初段に合格した話も楽しそうにしてくださいました。

八海高校校長を務めた後、県教育庁保健体育課長、県体育協会常務理事を歴任し、その間第64回トキメキ新潟国体では総監督として県選手団の指揮にあたり、柔道競技はもとより、我が新潟県を天皇杯総合優勝に導かれました。

県連の会長となられた今、今後の県柔道のビジョンをいくつか上げられていますが、その中で中学での「武道」の必修化について伺ったところ、先生は「柔道をする者として大変有難い事。授業時間のうち、まず最初は柔道着を着ないで、柔道の素晴らしさを話してあげたい。」と言われました。柔道と野球、サッカーなどの違いを問われれば、一つはつきりと言えることは、挨拶の仕方に「決まり」があることだと言います。勝負をする相手に敬意を払う相手を見る呼吸を合わせて礼をする「我が国伝統の行動の仕方」は武道の中に見ることができるとのことです。「つまらない物ですが

」という日本独特のフレーズの話になり「これには『私は貴方を大変尊敬しています。素晴らしい貴方に差し上げるには本当にたいした物ではないのです。』という相手に対して最大の敬意が込められているんです。」と話す先生。私には、行儀作法の先生よりも立川先生の言葉で聞く方が大きくうなずける気がしました。

青山の後輩へのメッセージです。「男一匹、戦うという事は、努力を重ねた後に勝負すること。様々な情報・知識を得、体を鍛え、最後にそれらを知恵として使う。一生懸命やったら負けたり。ただ一つ、負けても堂々と胸を張っていられる人であれ!!柔道で言うなら、試合後の礼だけを見たら勝者がどちらかわからないくらい挨拶・態度ができた方がいいです。」

柔道の魅力の一つに、「まるで『魔法』のように切れ味鋭く人を投げってしまう技とその爽快感」とあげてくださった先生。幼い頃の先生の心は、そんな魔法にすっかりかかったのかも知れません。お話の中から先生の柔道に対する熱い思いが随分うかがえました。柔道をやったことのない私の質問に本当に丁寧にお答えいただき感謝してお

ります。この原稿を書きながら、先生の内にある柔道の精神を改めて深く感じています。忘れ去られそうな日本伝統の心が柔道がとうございりました。

東北発電工業(株)取締役社長  
加藤 博さん (75回) 67卒 を訪ねて

会報編集委員 石井 智裕 (79回) 71卒



東北発電工業(株)取締役社長

東北発電工業(株)加藤博社長を仙台の本社に訪問いたしました。東北発電工業は東北電力の全ての発電所の点検修理や設置建設などを事業としています。社員は1800人で、関わっている人達を含めると6000人規模で業務をされています。加藤社長は本年6月まで東北電力の副社長として活躍。将来の電力市場の競争に向けあらゆるコストの削減、企画策定に努力されました。東日本大震災時では復旧、計画停電等の責任者として陣頭指揮を取られたそうです。津波で太平洋側の発電所は壊滅的被害を受け日本海側の発電所だけの運営を迫られた時

は計画停電を覚悟し、大口需要家への節電をお願い、復旧作業、病院、消防、警察への電力供給確保のやりかたなど、供給するところ、やむなく停止するところや保線人員の配置、更には計画停電実行時には、どの時点で停電を指令せねばならないかなど、苦慮されたとの事でした。また、中古の2万kWの緊急発電機を急遽ポランドから探し出し大型輸送機で空輸したり、法的に通常時では問題ない手続きが緊急時では復旧実行の妨げになり、これも行政の要請に応えつつ対応されたそうです。なお、東北電力では緊急時の出動態勢ができており、発令がなくなるとも復旧保線部隊は一定の要件警報で自立出動し、移動途中で具体的仕向け地が直接車載ナビに通信されるシステムがあり、仙台では、震災の翌朝白々と明ける頃には、新潟ナンバの保線応援部隊が続々と市内を通って被災地に向かつて行ったとの事で

す。1 年半の間 24 時間体制でやってきた復旧もめどが立ち、最後に残った原町火力発電所（南相馬市）も復旧。社内で復旧に関し徹底的に議論し、厳しいときほど笑顔を忘れずやり遂げていくんだという心構えで臨んだと話されました。

発電事業は原料となる燃料の安定確保が何より大切、一つの火力発電所で毎週 10 万トンクラスが一年中入港し、燃料を補給しないと発電が停止してしまう。大量の電気を使っている日本では、電力が足りないとい、とんでもない世界になるというエネルギー供給の大切さをお聞きしました。

子供の頃から理科系の事が好きで、新潟高校では地学部で天文学を勉強し星を見るのが好きだったそうです。夜空を見てみると星座の中の恒星が一つ一つ色が違うことに驚きいろいろ夢が膨らんだ。体が大きかったので柔道部によく遊びに行った。投げられたりして自然と受身も覚えた。あのころの新潟高校の文武両道、硬軟相許すという自由な垣根の無い校風は好きだった。本を読むのが好きでいろいろな本をよく読んだ。行間にある作者との対話を感じるとき世界が広がっていく感じが好きだったと思いを話されました。

卒業後は日本大学理工学部に進み電気工学を専攻。お父様が東北電力で用地関係の仕事をしており山奥で電線を設置する話などを興味深く聞いて育ったこと、東北電力の試験を受け合格し、初任地として山奥の水力発電所に赴任、町に買い物に出るのも大変な奥地で、同僚たちと合宿所に寝泊りして生活されたことなどを話されました。30代で新エネルギー産業技術開発機構（NEDO）のメンバーとして石炭をガス化してクリーンで燃料効率を上げる研究業務に参加。米国の学会で発表した思い出もお聞きしました。その時は、まだ夢に近いプロジェクトであったものが、後年福島県勿来でクリーンコールパワーという会社で実現することになったそうです。いろいろな分野の技術進展がある中、技術の組み合わせにも、新技術発展の可能性があることを学んだ。このような幅広い様々の組合せ積み重ねが人類発展の歴史になっていると思っている。ガモフの本など、若いときに読書が好きで、幅広くよく読んでいたことが役に立ってきたと話されます。

在校生に語ることをして、日々最善を尽くす事が大切と話されます。感性を磨くことも大切だが、日々の経験の積み重ね

が大切ではないのか。これを実行している人が、心の世界をつまでも広げて行くのではないかと感じる。これを忘れろとある時点で自己満足してしまい成長が止まってしまふ。人生には覚悟を決めて一歩踏み出すかどうか決断せねばならぬときがある。その時踏み出すか踏み出せないかは、これら緊張感を持つた経験の積み重ねで決まるような気がする。「時々」の初心、忘るべからず」丈夫精神で前進あ

るのみ。と語られました。加藤社長は震災の復興が一段落して東北電力の副社長を退任された日は、やつと見通しが得られ、肩から重荷がおりた気持ちだったと話されました。ご自身はざつとばらんとおっしゃいますが、それに加え心からの思いが言葉に乗って伝わってくるお人柄のように感じました。これからも益々活躍されますことをお祈りいたします。

会は古町の某所でカラオケ。さらに3次会で痛飲した者もいる。（年を考えるとカゲの声あり）この会に先立って昼間は有志 24 人がゴルフを楽しんだ。中にはさらに翌日もゴルフ、創立百二十年記念祝賀会と連チャンで奮闘した強者も少なくない。

### 同期会報告

### 青山62回生 喜寿を祝う会

永井 梓 (62回)

54 卒

われわれ 62 回生（昭和 29 年卒業）は今年、喜寿を迎えた。その年が母校の創立百二十年に当たるということで、創立記念式典と祝賀会の前日、10月19日（金）に「青山62回生 喜寿を祝う会」を新潟グラントホテル（中央区下大川前通3）で開いた。出席者は県内、県外合わせ総勢 70 人。懐かしい同期の仲間が集いであるが、創立百二十年前後夜祭の趣もあつて盛り上がった。

司会は地元代表の元日本サツ

カー協会理事・星野陸夫君。これはもう毎度恒例になっている。物故者に黙とうを捧げて開会。卒業時 339 人いた同期の校だが、喜寿ともなると物故者も 80 人を超えた。しかし「人生七十古来希なり」と言った昔を思えば、「希」はおろか、多くが健在で、なかならず、元気でこれだけの仲間が顔をそろえるのは欣快至極というべきだろう。

積もる話に花が咲き、大いに飲みかつ食べて、新旧校歌、応援歌を高らかに歌った。2 次会は古町の某所でカラオケ。さらに 3 次会で痛飲した者もいる。（年を考えるとカゲの声あり）この会に先立って昼間は有志 24 人がゴルフを楽しんだ。中にはさらに翌日もゴルフ、創立百二十年記念祝賀会と連チャンで奮闘した強者も少なくない。





### 第9回「青山68会作品展」の報告

田中 光弥 (68回) **60卒**

去る9月5日(水)～9日(日)まで、新潟市のNSTギャラリーにて、青山68回卒業生(1960年・昭和35年)とその家族による作品展が開催されました。第1回は、平成16年9月でした。当初は継続する予定ではありませんでした。その終了後の打ち上げ反省会で、ぜひ来年もやろう!と、皆で盛り上がりつつも8年も経過しました。

まず、入り口前には片桐靖孝による手作りの絵風の案内板が迎えてくれます。そして世話役の若松昌弘の挨拶文には、「出品者は、半世紀以上も前の高校の文化祭気分です。」とあります。会場の中に入ると、青木彰による自主録音制作のCDからのBGMが流れています。まず始めにお眼に留まるのは、特別出品をお願いしている、長谷川義明・青山同窓会会長による掛軸の書です。そして、多士濟々のメンバーとその家族の28人による、各種の絵画から書・陶器・手芸品・写真・能面や帆船模型などなどの41作品が展示されました。また8日(土)には、特別協賛として昨年に続き、メンバの江戸千家・真野宗昭社中による抹茶のサービスも行われました。

会場の設営・準備から後始末・撤去まで、すべて68会メンバーの協力によるイベントでありました。この日の為に、それを励みに、制作に勤しむ古希を過ぎた面々の1年間の成果の発表の場でした。

青山68会としては、これまでに料理教室・絵画教室もメンバーの指導により行われて来ました。そして山歩きやゴルフ会や茶道の会は活発に行われていま

す。お互いにそれぞれの持っている力と知識を出し合っ

て、リタイア後の生活を少しでも高めようと、協力し集まっています。さて来年は10回目となるわけですが、皆が元気で、有終の美を飾るべ



く?、今から準備にかかることと思いません。そしてお陰様で今回の来場者数は300人余にも及び、会場を盛り上げて頂いた皆様のご協力に感謝いたします。また来年にもお会いできますように。

その他の詳細・会場の様子については、「青山68会」のホームページをご覧ください。http://www.kitamurass.co.jp/aoyama68

### 卒業50周年同期会報告

創立百二十周年と卒業50周年を迎えて

田中 信 (70回) **62卒**

あけましておめでとうござい

ます。昨年、われわれ70回は、奇しくも母校の創立百二十周年が卒業50周年にあたり、70歳の古稀を迎えるという誠におめでたい年に当たりました。

2年おきに開いていた同期会をこのおめでたい年にあわせ、6月2日、同期生96名が来賓に宮地先生をお迎えし創立百二十周年と卒業50周年プラス古稀をイタリア軒でお祝いしました。

斉藤忠正君と白石(久保)旺子さんの総合司会のもと、増田勝弥会長の開会の挨拶のあと、前回の同期会後に逝去された関根彰円先生、宮下忠雄君、鈴木重也君、山田修君、平山賢一君、斉藤邦政君、田中靖夫君のご冥福を祈り黙祷を捧げました。

佐賀市から参加された酒井(田川)ゆき子さんに乾杯の音頭をとっていただき、92歳の誕生日を迎えられますますお元氣な松浪清先生のご健康を祈念しました。

いつまでも若々しい宮地先生から「定年後はじつとしていな



き、卒業時には予想もしなかった古稀を同期会で皆と一緒に迎える無量です。これからは健康に気をつけ体を鍛えて長生きしたい」との思いに共感された方も多かったと思います。

楽しく懇親を深めるうちにあつという間に時間がたち幹事諸兄のご苦勞に感謝して閉会しましたが、2次会場にほぼ全員が移動し深更まで歓談しました。翌日、恒例の青山70回マスターズゴルフがフォレストカントリー倶楽部で行われ金子健三君が優勝、増田勝弥君が準優勝しました。

### 76回生(昭和43年卒)同期会(東京会場)のお知らせ

日時 平成 25 年 2 月 16 日 (土) 12:00 ~ 14:30 (2次会も開催予定です)  
会場 新宿ワシントンホテル新館 東京都新宿区西新宿 3-2-9 (tel.03-3343-3111)  
会費 8,000 円  
連絡先 西沢芳樹 (4組) 携帯電話 090-3534-0223 携帯 E-mail 2513yoshi@ezweb.ne.jp  
その他 東京会場では4年ぶりの開催です。前回は71名の参加でした。新潟等にお住いの方々の参加もお待ちしております。

### 第78回卒業生還暦祝賀会報告

熊木 徳次郎 (78回) **70卒**

4月1日生まれの人まで全員が60歳になってから還暦の祝いしよう、とのことで我が78期では、既に61歳になってしまった人もいましたが、平成24年8月11日に「還暦祝賀会」を開催しました。同期会は毎年開催していましたが、節目の年の記念すべき会とのことで、会場は「行形亭」と気張ったものの、予算の関係もあり午後2時半開会と相成った次第。とは言いながら、外の明るさなど物ともせず、大いに盛り上がった「還暦祝賀会」の報告をさせていただきます。

残暑の厳しかった今年の夏、その真っ只中の会当日も強い日差しではありましたが、行形亭の門を潜ると木立に囲まれた園内は風が通り抜け、気持ち良いこと言うこと無し。更に名物の流しそうめんを潤していただき本番へ。

小田一彦、本田至の両先生と、同期生67名の参加を得て始まった祝賀会は、志半ばで亡くなった仲間達のご冥福を祈つての黙祷のあと、代表幹事の五十嵐祐司君の挨拶、お二方の先生からの祝辞と続いて祝賀会は滞りな

く終了し、場所を二階の大広間に移して、いよいよお楽しみ会の祝宴に突入したのでした。酔眼朦朧とならないすつきりした顔のうちにと、まずは全員で集合写真。上座に座っていた

後はお決まりの「丈夫」を相沢裕吉君の音頭で声高らかに歌い、我々の記念すべき祝賀会は無事に終了したのでした。2次会はイタリア軒に会場を移し、そこにも60名近い出席者があり、祝賀会には都合が付かずおいでになれなかつた石黒明徳先生の乾杯のご発声で賑々しく始まったのでした。

平成24年8月11日、我がが新潟高校79回生の「還暦記念学年同期会」が盛大に開催されました。以下、皆様に報告申し上げます。

場所は、湊町新潟の文化香る「鍋茶屋」さん。恩師の先生4名を加えて、全国から総勢110名の同期の皆さんに参加していただき、大いに旧交を温めあつたのであります。

まだまだ暑さの残る4時過ぎより続々と集合して、早くも待合室は大いに盛り上がりです。午後5時より、3班に分かれて記念写真。そして5時半から、いよいよ同期会の始まりです。司会は、神林裕君。まずは、我がが学年幹事で、今回の実行委員長を務めてくれた、白井行雄君の開会宣言です。今回これだけの皆さんが集まることのできたのも白井君が卒業以来、住所やメールアドレスなどを丹念に整理してくれていたからで、本当に感謝したいと思えます。

校歌斉唱の指揮を執ってくれたのが、後藤丹君。豪華ですね。駆けつけていただいた5組丸山康先生、6組曾我浩先生、7組

渡辺卓爾先生、9組上杉雅之先生からそれぞれ挨拶を頂きました。高校生の時は、怖い先生たちで、ずいぶん年配に見えていたのですが、当時はまだ30歳代だったのでですね。乾杯の音頭は、今井幹文実行副委員長。この後、古町芸妓さん柳都さん全員による「祝舞」で会は一気に

最後は恒例の「丈夫斉唱」です。指揮を執るのは、やはりこの人しかいません。我がが実行委員長・白井行雄君です。全員で声高らかに斉唱しました。思えばこの歌を歌いたいばかりに一生懸命勉強したんですね。

今回は、卒業以来2回目の学年同期会でした。これからは、もう少し期間を短縮して開催したいものです。たとえば4年に1回とか。最後になりましたが、参加していただいた恩師の皆様、本当にありがとうございます。全国から集まってくれた同期の皆さん、次回もよろしくお願ひします。企画・運営・支援と活躍していただいたサポーター、そして実行委員の皆さん本当にありがとうございました。

### 祝！還暦 79回生学年同期会

実行副委員長 吉田 至夫 (79回) **71卒**





# 卒業35周年同期会のびび報告

渡邊 毅 (85回) 77卒

昭和52年に新潟高校を卒業した私共85回生は今年卒業35周年を迎えました。

去る8月11日(土)午後6時よりANAクラウンプラザホテル新潟に於いて、35周年を記念して同期会を開催しましたので、その時の模様をご報告させていただきます。

当日は同期生71人が集まり、また恩師の先生方6人にもお越し頂き、3年生時のクラス毎にテーブルを囲みました。集合写真の撮影に続いて諸先生方からお言葉を頂戴し、懐かしい在校時のスライドや青陵祭の現況の上映など盛り沢山の内容に大いに会場が湧く中、近況を報告

た印象です。会場で販売された同期の小松原雅之君作成の前回同期会時のDVDや、梶原裕君の会社作成のロゴ入り記念ポロシャツ、佐藤やよいさんの画集等も忽ち売り切れしました。多少の利益が生じたので次回同期会開催のための経費に充てたいと考えております。



2次会は同ホテル最上階のラウンジで、また3次会は古町に場所を移して、更に思い出話に興じ欲を尽くした次第です。散会した時には日付が変わっておりました。

りました。諸先生方の元気なお姿には50代半ばを迎えようとしている私共一同、大いに勇気づけられました。

# 86回生第3回同期会報告

幹事 中川佳代子 (86回) 78卒

平成24年11月3日ホテル日航新潟において、86回の第3回同期会が開催されました。前回は平成20年1月で、4年10ヶ月後の開催です。若い頃と違い、この年月は恩師の先生方も我々同期生にも大きな変化をもたらしました。第1回、2回ともに9名の先生方に参加していただきましたが、今回は柴野章一郎先生、入田年夫先生お2人の参加となりました。

司会進行は1組の玉木正己君で第1回同期会の幹事長です。軽妙な司会進行で幹事(渡辺政

次君)による開会の挨拶、担任の先生方のお話、乾杯(前々年まで新潟高校のPTA会長であった五十嵐実君)、各組単位の自己紹介と続き、歓談として、会の最後はもちろん丈夫の大会唱で締めくくりました。

柴野先生からは今の若者が内向きであり、これからの日本においてはグローバル人材育成が課題であること、御自身は夏目漱石を見習い、船でハワイに向かいハワイ大学に進学、大学院までいらしたというところをお聞きしました。(Try!)はハ



ワイ仕込み!?)

入田先生からは今年度から11月1日に制定された古典の日にちなみ、日本が豊かな文化遺産を持つ国だという認識し触れて欲しいということ、同期の荒木浩君が国際日本文化研究センターの教授とし古典の世界で御活躍のことをお聞きしました。

また幹事より同期の栗川治君が本を出版したことの紹介があり、五十嵐君からは百二十周年の記念事業で各教室全部に電子黒板が入る(県内高等学校で全教室配備は初)ことになった経緯等お聞きし、ICT教育の先駆的役割の学校でもあることが紹介されました。

今回は3回目にして初めて自己紹介の時間を設け、お互いの交流

### 89 回卒業 同期会開催のご報告

星井 利樹 (89回) 81卒

平成24年10月20日土曜日、新潟県新潟市東区に於いて、89回卒業生が新潟県内各地から集まり、新



けでなく北は北海道、仙台・首都圏・岐阜・神戸・愛媛より80名が恩師5名をお迎えして高校卒業以来初めてとなる同期会を行いました。

当日は、母校創立百二十周年の記念式典・祝賀会が行なわれる日とあつて開催に人が集まるだろうか心配がありました。種々の事情によりこの日の開催とさせて頂きました。

受付開始時間になると懐かしい顔ぶれの同窓生が集まってきました。3年時のクラスと名前を名札に書いてもらおうと少しずつ記憶が呼び戻され再会を喜ぶ姿があちこちに見られました。

会場内では、プロジェクトによる交流が始まりました。司会の西條和佳子さんが開会を告げ、小生が同窓会学年幹事として挨拶をさせていただきました。

神戸より出席の上田登志雄君の乾杯の発声で酒宴が開始されました。緊張が解れたところで出席いただいた、田辺隆、目黒俊員、柳下明也、渡辺寛各先生より近況や当時の思い出、私たちへの激励を頂戴いたしました。

### 19 回卒の集い

石塚 晶 (通19回) 77卒

私たち59名は、昭和52年3月に卒業しました。卒業して35年余りの歳月が過ぎました。いままでに2度同期会を開催しました。このたびは、昨年9月の恩師を囲む会に久しぶりに参加した私が、同期の皆さんの御意向を酌み、20数年ぶりに2度目の同期会を、あやめ祭り開催中の阿賀野市瓢湖湖畔で、6月17日に行いました。私は今もそうですが、日々の生活に追われ同級生等は、誰かが段取りをしてく

ちらで笑顔と笑いの絶えない宴会となりました。 歓談の中、百二十周年祝賀会より野坂泰司先生が到着され、御挨拶を頂戴しました。 栗間聡君のカメラで参加された先生を囲み各クラス毎に写真撮影を行いました。最後に撮影した全体の写真は全員満面の笑みで写ることとなり良い記念となりました。

最後は、灰野正宏君のリードによる丈夫を声高らかに歌い盛会の内に閉会致しました。 再会を誓い、会場を後にしましたが、次回開催につながる楽しい会となりました。

暑い夏もアツと云う間に過ぎ、秋たけなわの最後の日曜日に第26回青山体友会は開かれた。 高齢化のため、当日出席の2名が急遽、欠席となり6名のメンバーでした。顔を見れば、10年前の体操部の生活がよみがえるから不思議である。幼稚で野蠻で単純な体操だったねと口を揃えて言う。体操の進歩はすばらしい又それをとりまく器具や補助具の進歩は目を見張るものがある。しかし、吾々の基礎

### OB 会 報 告

### 青山体友会の集い

中川 弘 (58回) 50卒

があるから今日があるのだと思うと、歴史の一頁を吾々が作つたとの自負はほこりに思う。70歳は5年毎の体力維持が出来たが80歳に入ると1年毎に体力が減少するのを感じると皆同感する。体友会も80歳が最年少で皆80以上である。高齢化したものです。長生きの時代になったねの合言葉はきかれてから大分たつ。新聞のおくやみ欄にも80代90代は当り前100代が目立つ。人生100歳時代に入ったのかも知れ

早めに会場に行つたのですが、すでに大半の方が、お集まりで近況報告や昔話が始まっています。卒業以来35年ぶりにお会いする方もいて、あらためて同期会を行つてよかつたと思えました。ひと時35年前に戻り、あの頃の話があらちちから聞こえました。また、孫の話や健康のことなど話しているうちに、あつという間に予定していた4時間が過ぎてしまいました。近いうちに、またの再会を約束して散会しました。





の体操部のOBがあつま  
り、話をするということ  
はすばらしいことであ  
る。高齢化とは言え2人  
になる迄頑張りとう会長  
と話をしている。現在は  
母校には、体操部はない  
が、いずれの時から復活す  
るのを楽しみにしてい  
る。恒例の渋谷氏の手品  
どこでも、いつでも、簡  
単に出来る、ハンカチと  
金貨の手品を披露し、覚  
えておいて下さいと皆熱  
心に自分のハンカチと100  
円硬貨を出してやってい  
る姿は童心に帰り、ほほ  
えましい。体操を愛し、体操を  
好きな同志の健康と来年の再会  
を期して散会する。

えまじい。日本人には体操が合っ  
ているのかもしれない。新潟の体  
操は新潟中学より幕をあげ、全  
国にも新潟の体操として注目さ  
れたのである。その体操部で  
あったと思うと、ほこりに思っ  
ていいわけである。年に一度昔  
回 中野文郎 (59回) 以上6名  
出席者 土田卯八郎 (51回)  
渋谷興司 (53回) 青山茂郎 (55  
回) 安倍豊 (58回) 中川弘 (58  
回) 曾我勝四郎君 (70回) は長身  
からくりだす低  
中音の音が魅力  
のハンサムボー  
イである。

で毎月一回朗読  
劇の練習を始め  
たのは平成17年  
の末である。  
青木彰君 (68  
回) は私が在学  
中の1年下の演  
劇部員で音楽の  
才能は抜群。合  
唱団の指揮者と  
して活躍して  
いる。

五十嵐松夫君  
(70回) は力ま  
ない、あわてな  
い、とほけたよ  
うな感じの話し  
方が彼の役柄に  
無理なくびつた  
りであった。

### 夢の舞台で演劇部OB朗読劇

永井 健司 (67回) 59卒

新潟高校の焼け残った木造体  
育館で全校生徒に見せる演劇部  
の仕事は、まず近くの教室から  
教壇を運び、積み重ねて舞台を  
作ることから始める。

それに引き替え母校の視聴覚  
ホールは演劇でも合唱でも堂々  
建設された「クロスパル新潟」

と出来そうなものだった。  
平成24年9月22日、約50年隔  
ててこの舞台で朗読劇「セロ弾  
きのゴッシュ」を披露すること  
が出来た。

私の卒業した礎小学校跡地に  
旧姓鷺尾紀子さん (71回) は  
台詞回しがゆつたりとして育ち



を取って自分の出番を確認する  
と言う重要な役割を荷っているの  
である。

田中光二君 (73回) は我々の  
中で唯一の現役の社長なのだ  
が、事務方を快く引き受けてい  
ただき、会計係を手際よく処  
理してくれた。声の良さとクリ  
アな発声は最高だ。

私が高2か3年の時に滝沢強  
一先生が大学を卒業して県高に  
国語の教師として着任、演劇部  
顧問教官にもなられたのが我々

### 平成24年度青山柔道部OB会総会

立川 克雄 (72回) 64卒

恒例の青山柔道部OB会稽古  
会・総会は、平成24年11月17日  
(土) に行なわれた。

1時半から始まった母校道場  
での現役との稽古会では立技、  
寝技の乱取に、OBは年を忘れ  
息を切らしながらも青山柔道を  
伝えていた。(今年は黒帯の1  
年生5人を迎え稽古にも一層熱  
が入っている。県大会でも近年、  
必ず入賞者を出している。)

6時には、これも恒例となつた  
東堀通八、ホテル金寿三階「海鮮  
亭羅言」(女将が91回の風間まゆ  
みさん) を会場に開催された。

会の冒頭に青山柔道部OB会  
として、佐藤信秋会長を今後と

との接点である。先生は新潟高  
校の校長を最後に退職、その後  
市内私立有名校長などを勤め  
られて、毎月30分近い時間を割  
いて、最近の話題を古典、歴史  
を含めて数枚のプリントを我々  
に配って説明して下さい。



に移し再び氣勢を上げ今回の再会を約束した。

出席者：奥村紀男(67)、立川克雄(72)、丸山澄夫(73)、佐藤成昭、佐藤信秋、小川もりと、古寺吉和(74)、相澤裕吉、齋藤斉(78)、倉田久郎衛、広井俊隆、山下義昭(82)、栗林仁(83)、大沢満(84)、橋本伸(86)、須田剛(87)、儀同政宏、齋藤俊弘(90)、野沢雅行(91)、福田仁史(95)、渡邊久雄(96)、名塚武史(97)、小田将之(100)、竹石健、目黒孝之(顧問)

## 第19回OB現役交流会報告

山際 岩雄 (76回)

68卒

2012年9月1〜2日に、恒例の新潟高校山岳部OB現役交流会が実施された。OB会会長の馬場さん(74回)のブログによればこの交流会は1993年に開催された創部40周年記念事業の企画の中から、当時の顧問であつた藤田先生の発案で始まつたものとのこと。現役3年生の追い出し山行を兼ねた1泊2日の交流で、巻機山の麓にある山小屋に集まり懇親会の後、翌日巻機山をヒストンするという企画で、途切れることなく続いているので計算が正しければ今年で19回目と言ふこととなる。当初よりOB会幹事の石沢君(79回)からお誘いのメールを戴いていたが、当時住んでいた山形からは遠すぎたし、6年前新潟に移り住んでからも、いつも何かとバッティングしてしまい、今回が初めての参加であつた。

薄暮に染まる山小屋に着くと、おおむね60台のOB諸氏4名はアルコールも入り昔談義やれ40kg担いだの、登りでも走らされたのだ。現役の2年生2名と1年生6名(うち女子3名)は夕食の準備に忙しい。それを

監督する顧問の先生方3名。夕闇の迫る頃、現役諸君が作ってくれた食事に舌つづみを打ちながらの交流会。さらに暗闇の中を関東地方からなんの前触れもなくやつてきた若手OB渡辺君(108回)の飛び入り参加、さらに当日行われた模擬試験のため遅れて参加した3年生3名が加わり、総勢20名の交流会は和気藹々とした雰囲気のかに続いていった。現役からは最近の夏合宿など活動状況や、印象に残つた山の話、これからの抱負が語られた。OBからも現役時代の思い出などが話された。67才を迎えた小林・水

野両先輩(72回)からの、高1の夏合宿で悪天候のため果たせなかつた立山から槍ヶ岳への北アルプス完全縦走のリベンジを50年ぶりに果たし感動の涙にむせんだ、という話は50歳の年齢差を一気に解していった。

翌日は秋晴れの元、巻機山登山を楽しんだ。その年になつて気が狂つたと思えない沢登りに向かうという馬場さん、なぜか分からないが小屋番をしていると言う石沢君を除く18名はそれぞれのペースで戸尾尾根を登つた。馬場さんの向かつた米子沢は、僕らが1年生の秋、エベレスト・ポストモンスーンのファーストサミッターである石黒先輩(73回)に連れられて登つた沢で、50年の歳月を経てもなお強烈な印象として残っている。滝の途中のジャンプ、チムニー滝登り、上部一面に続くスラブの美しき、最上部の紅葉と針葉樹の緑のコントラスト(同級生西沢君、「ふくろう」より引用)。今日は穏やかな尾根登り。下部のブナ林が美しい。頂上で久しぶりに「ますらお」の合唱。山はいい。



山岳部は2013年に創部60年を迎える。すでに一部のOBでその準備にあたつている。

### 山岳部OB会 創部60周年記念祝賀会

山岳部創部60周年祝賀会を、下記にて行います。

日時：2014年1月3日 午後3時より

会場：万代シルバーホテル3F

詳細は yama@webstn.com 迄



# 「青山陸上競技OB・OG会」の

## 還暦祝の報告

高山 俊彦 (78回) **70卒**

平成18年8月に北海道寛氏72回(以下敬称略。現アルビレックスRC取締役)、豊岡示朗73回(大阪体育大学教授)両氏の還暦を祝う「青山陸上OB・OG還暦を祝う会」が開催されました。今回の平成24年8月12日で7回目の開催になります。

当時、天下の県高・青山といえども、昭和40年頃には陸上競技を専門的に指導して下さる先生はおられず、私たちの練習は先輩方の助言を得ながら自主的に行っていました。しかし、夏休みに行われる6泊7日の合宿(その当時は教室に寝泊りをしていた)に「頼りになる」多くの先輩方が足を運んで下さることが恒例でした。その期間の猛練習が今思い出しても忘れられないのでない体験であり、「その事があつたればこそ現在の自分がある」と断言できるものでした。その内容の一例を挙げると、早朝練習から連帯責任が問われる無限の懸垂、護国神社での連続ウサギ跳び、木に登り「ミーン…」と叫ばされ



る蟬修行、合宿最終日には屋上コンクリート上での一時間の「正座」でした。

しかし、この「しごき」を克服できた体験こそがその後の人生を歩む上で、大きな力になったことは間違いないと後輩一同は思っています。

そんな先輩方に感謝の意を表す意味で始めたこの還暦の祝いは、その後、この会の提案者である74回伊藤宏(静岡大学教授)、同期の小池哲雄(新潟市民病院長)、大石憲一(極東貿易から独立、BCSS社長)、

76回大橋誠五(国際総合計画社長)など、今では参加する後輩も広がり、毎年総勢30名を超える人数で開催しています。

今年も、地元でインターハイが開催され、競技場に掲げられた部旗が古く小さいものであった」との報告があり、その場で参加者全員からより大きく

### 水友会・水泳部関川村合宿

山際 和明 (83回) **75卒**

関川村合宿が8月3日から5日まで行われた。水友会OBが最終日の午前に部員とリレー対決をし、昼に部員にバーベキューをご馳走することが恒例になっている。私は最終日のみ参加したが、水友会OBは4日の昼過ぎからカジカ取りなどで準備運動を始めている。夕刻からの懇親会には関川村村長である平田会長、松本さん(55回)、小熊さん(58回)も加わり、準備運動の成果を確認しつつ近況報告や水友会の思い出話で大いに盛り上がったようである。

5日はOB対現役部員対抗リレーである。OBチームは勝てそうな女子部員を相手にハンドキャップ付きレースを挑むのが常であるが、今年は女子選手がいない。可愛いマネジャー達に勝負を挑むわけにもいかず、男



見栄えのする応援旗を贈ろうと寄付金が集まり、「丈夫魂」の部旗」を現役後輩諸君に贈ることができました。

この記事を見ていただいた先輩後輩諸氏は私に連絡をいただければ幸いです。

携帯電話  
090-1663-8999

### 創立二十周年を迎えて

#### 青山バスケットボールクラブ

和澄孝男 (83回) **75卒**

句も言わず本気で泳いでくれた部員の気持ちがあうれしかった。私自身は最初のレースでいとも簡単に抜かれ、高校生のはじける若さと強さをまざまざと見せつけられた。対抗リレーといつても現役部員に我々が遊んで貰っているのが真相であるが、部員達と一緒に泳ぐことができて楽しいひとときであった。

プールの後は宿舎裏山でバーベキュー。焼きそばから始まり、差し入れの手作りウインナー、山形牛など焼き上がる端から瞬くうちに部員の胃袋に収まった。最後にそうめん腹を満たす。最後にそうめん腹を満たす。最後にそうめん腹を満たす。

本校の創立百二十周年にあたり、あらためてバスケットボール部の歴史に想いをはせてみた。数年前より当OB会の会長を仰せつかつているが、この年になつてしみじみその伝統の重さと先輩後輩の関係の重要さやありがたさをいつも感じている。本校のバスケットボール部は、まもなく創立90年を迎えんとする歴史を有している。新潟県のバスケットボール協会は昨年で80周年を迎えたが、それをもしのぐキャリアである。この間、

した後は、横瀬さんの激励などがあり、丈夫で締めとなった。後日、榎山さんから頂いた集合写真には「互いに励まされる会」とタイトルがつけてあった。部員達を励ますことが目的であるが、部員達の笑顔に触れ一緒に泳いで我々が部員達のエネルギーを分けて貰った。タイトル通りである。何事でも一所懸命に突き進める若い部員達の成長と活躍を心から願う。

関川合宿は毎年8月上旬、水友会総会は隔年で8月上旬に実施している。多くの水友会員の参加をお願いしたい。

体育館の改築・建て替えを数回経ているが、そのコートは、まさに先輩諸氏の青春の汗と涙がしたたり落ち重なりあう結晶そのものであったであろう。本校の沿革によると、昭和25年にはじめて女子生徒が入学したとあるが、女子バスケット部も昭和50年代に誕生し、すでに多くのOGも輩出している。

当OB会は、OBの会費(強制的なものではないが)で運営されている。それを原資として、現役のレベルアップと親善交流

を目的とした「青山親善バスケットボール大会」を毎年3月にOB会の主催で開催しており、すでに20年以上を経過した。また、遠征費やユニフォーム新調費の足しにしようというため、いくばくかの活動費を援助している。OB会は、毎年正月に開催し、現役諸君とOBの交流をはかっているが、せわしない時代のためかOBの参加数が減少していることに少しさびしい想

### 青山バドミントンクラブ

高橋 裕之 (84回) 76卒

平成24年10月6日、曇り空、恒例の現役とOBの合同バーベキュー大会が行われました。参加者は総勢31名で、西海岸公園にて行われました。この行事は25年以上も続くもので、昨年までは、信濃川河川敷で開催しておりました。しかし、今年度は護岸工事のため立ち入りができず、場所が変更になりました(1週間前に発覚)。しかし、結果的にこの会場は新潟高校から近く、トイレもあり、水場もあることから、変更してよかったですね!という意見が多く、来年以降もこの場所になる可能性が大いそうです。

予定時刻より1時間も早く集合でき、準備から現役生もかか

いを感じている。

ところで、学生時代の部活動や同窓会を通じて人脈の重みを、社会に出てから知ることとなった人は多いであろう。私も、その一人である。特に、本校の卒業生は社会のあらゆる分野で活躍をしている。OB会の場合を通じて、先輩後輩の関係から人のつながりを広げていくのも楽しいものである。



話を一人一人聞くことができ、最近では中学校からの経験者の入部が少なく、なかなか各種大会での上位入賞が実現できなくなっています。未経験者でも上達した実例が話題になったことから、今後に向かって頑張ってほしいなと思います。

最後になりましたが、このバーベキュー大会も準備が大変なのですが、参加者が増え、一年でも長く継続できればよいと思います。

すが、今回は参加人数が減ったおかげで(部員の減少と体調不良による欠席)参加部員全員の

も増え、一年でも長く継続できればよいと思います。

### 『青山ラグビークラブ・2012活動報告』

小見 毅 (92回) 84卒

昨年『青山ラグビークラブ』として、ラグビー部のOB会活動を行うことができました。一つには夏の『青山ラグビー祭』です。毎年恒例行事として、昨年は8月11日(土)に母校のグラウンドで行いました。いっ

た。中にはご家族で参加をして



すのでより多くのOBに参加していただきたいと思っています。今年もラグビー部のOB会活動にご協力をお願いします。



特別寄稿

創立百二十周年記念  
第34回青山ゴルフ会(報告)

江花 和郎 (79回) 71卒



第34回青山ゴルフ会は10月28日(日)紫雲ゴルフ倶楽部で開催され、最年長50期の上村光司氏をはじめ53選手が出場して、時折り雨の混じる強風の中で激戦を繰り広げました。同期出場者上位3人のネットスコアで争う団体戦は79回(昭和46年卒)が優勝させていただきました。79回は昨年(2012年)還暦を迎え、また創立百二十周年という節目の年に念願の優勝を果すことができました。青山ゴルフ会には例年最多人数が出場



参加賞 (オリジナルマーカー)

させながらなかなか優勝に手が届かず、他の期から軽んじられておりましたので、喜びは一入でした。今回は私、江花と廣島顯君が個人戦で優勝・準優勝という幸運に恵まれましたが、ペリア戦で3人とも上位に入らなければならぬ団体戦の難しさを勝って改めて感じたところで、優勝は偉いことです。ゴルフ愛好者は多いと思われる。同期が久しぶりに顔を合わせる機会ともなりますし、市内に戻って夜の表彰式・懇親会も大いに盛り上がります。賞金を手に2次会に繰り出すもよし。次回開催は今年5月26日(日)を予定しています。多くの青山同窓生の参加を期待したいと思います。

なお団体戦2位以下の結果は、②69回、③68回、④70回、⑤72回、⑥88回、⑦84回、⑧59回、⑨61回、⑩71回でした。最後になりましたが、毎回大

同窓の本

ピアノレシピ フルコース(全二巻)

全音楽譜出版社

後藤 丹 (79回) 71卒



な団体戦2位以下の結果は、②69回、③68回、④70回、⑤72回、⑥88回、⑦84回、⑧59回、⑨61回、⑩71回でした。最後になりましたが、毎回大会事務局の労をとっていただいている本間組同窓の皆様へ感謝申し上げます。

一応はピアノ名曲集ですが、一種の奇書と言っても良いかもしれませぬ。『愛の挨拶』『月光』など8つの名曲を、フルコースの8品(オードブル、スープ、

教授) 上のレシピを読んだことで、う。「遊び心に満ちたピアノ愛(作曲家・上越教育大学大学院

魚料理等)に見立て、私が「ピアノ・シエフ」としてレシピ風に演奏のこつを説くという趣向。例えば『エリゼのために』では「ソナタ、変奏曲など、比較的高カロリーのセットメニューを主とするペートーヴェンの作品から、愛らしい単品料理を取り上げましょう。」という調子で始まり、肉入りシチューに即して解説が進みます。最も苦労したのが曲の展開に手順が合う料理を見つけて、多分百以

母校は今

私の原動力

2年 広田 有紀

8月に行われた地元開催のインターハイで3位、そして10月に行われた岐阜国体では、念願の優勝を果たすことができ、自分でも信じられない思いです。思い返してみると、ここまで自分が頑張ることができたのは、「悔しい」という思いが影響していたと思います。インターハイを終えた時、満足のいく3位でした。ところが、終わってみると、周りからかけられる言葉には二種類ありました。一つは「おめでとう。」そしてもう一つは「残念だったね。」後者の声は予想外だったので、ショックでした。その頃から、インターハイで優勝した横須賀高校の平野さんにリベンジしたいという思いが芽生えました。高校3年生の平野さんと直接戦えるのは、今回の国体がラストチャンスでした。実は今まで陸上の大会で、ここまで誰かに勝ちたいという思いで臨んだことはありませんでした。この思いが自分に芽生えたことは驚きでした。優しい言葉だけでは、ここまでこれなかったと思います。これからも、悔しい気持ちを胸に刻みながら、更なる記録更新を目指したいと思えます。



新潟日報 2012年10月6日付 新潟日报社提供

## 平成 24 年度 文化庁大会結果報告書

- 放送 第 59 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト新潟県大会  
 アナウンス部門 2 位 井田 優子  
 3 位 阿部花奈子  
 奨励賞 川崎 夏帆  
 朗読部門 3 位 阿曾 美雪 5 位 平山 佳奈  
 奨励賞 池上 味花  
 テレビドキュメント部門 1 位 「笑顔写真家－写真に秘めた思い－」  
 3 位 「ファーマーズ・ハイ」  
 ラジオドキュメント部門 2 位 「あの優しさは今」  
 創作テレビドラマ部門 1 位 「Aren't you me?」  
 創作ラジオドラマ部門 2 位 「AMI」  
 3 位 「これは彼と彼女のお話」
- 第 59 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト  
 テレビドキュメント部門 優良賞 (6 位相当) 「笑顔写真家－写真に秘めた思い－」  
 創作テレビドラマ部門 入選 (ベスト 10 相当) 「Aren't you me?」
- 第 25 回新潟県高等学校放送コンクール  
 兼第 32 回 QK 杯校内放送コンクール  
 朗読部門 1 位 阿曾 美雪  
 アナウンス部門 2 位 井田 優子 [2 名 全国大会出場]  
 テレビ番組部門 3 位 「新潟なう～ゆとりの未来図～」  
 アナウンス部門 奨励賞 小萩 朱里 [1 作品 3 名 北信越大会出場]
- 写真 第 16 回撮影大会 デジタル部門 特選 諸橋 俊大 奨励賞 鈴木 薫子  
 第 36 回全国高等学校総合文化祭・富山大会 文化連盟賞 阿部佳代子  
 第 26 回写真専門部展 モノクロ部門 優秀賞 諸橋 俊大 (全国高等学校総合文化祭出場)  
 優秀賞 大嶋 和海 (全国高等学校総合文化祭出場)  
 学校賞 5 位
- 合同撮影会フォトコンテスト 優秀賞 諸橋 俊大 特選 相原 瞳
- 演劇 新潟県高等学校総合文化祭演劇部門  
 下越地区 (A) 演劇発表会 優秀賞  
 新潟県高等学校総合文化祭演劇部門  
 新潟県高等学校演劇発表会 関東高等学校演劇研究大会県予選会 優秀賞、創作脚本賞
- 囲碁 全国高等学校囲碁選手権大会  
 男子団体戦 4 位 (小林 賢登 三輪 龍大 佐藤 勇人) 男子個人戦 ベスト 16 小林 賢登  
 全国高等学校総合文化祭富山大会  
 県代表団体戦 出場 (主将 三輪 龍大) 男子個人戦 出場 小林 賢登  
 女子個人戦 11 位 莪山 叶実  
 新潟県高等学校総合文化祭囲碁大会  
 個人 A ブロック 1 位 小林 賢人 2 位 三輪 龍大  
 個人 B ブロック 1 位 長谷川拓也 3 位 津野 貴之 4 位 林 智久  
 個人 D ブロック 1 位 山田 果歩 4 位 大野 李奈 以上 北信越大会出場  
 北信越高等学校囲碁選手権大会  
 男子団体 1 位 新潟高校 (小林 賢登、三輪 龍大、長谷川拓也)  
 女子団体 1 位 新潟高校 (莪山 叶実、山田 果歩、大野 李奈) 以上 全国大会出場
- 書道 第 13 回高校生国際美術展 奨励賞 齋藤多佳子  
 佳作 関 春菜  
 第 11 回岐阜女子大学全国書道展 準大賞 関 秋菜  
 第 24 回 「道風展」全国書道展覧会  
 小野道風公遺跡保存会賞 関 秋菜  
 中部日本書道会賞 関 春菜 秋萩賞 齋藤多佳子  
 新潟県高等学校総合文化祭  
 書道部門展 関 秋菜 関 春菜 早福あやか 布施 千尋 宮山千紗都  
 関 春菜 「臨 伊都内親王願文」 全国大会出場決定
- 新大全国競書大会  
 新潟大学長賞 (第 1 席) 齋藤多佳子  
 新潟県高等学校長賞 (第 5 席) 生田 竜晨  
 新潟市芸術文化振興財団賞 (第 8 席) 関 春菜  
 朝日新聞新潟総局賞 関 秋菜  
 特選 大森 愛 高橋 哲  
 準特選 布施 千尋 平山いずみ 渡辺 千晶 金井涼海 藤崎綾衣子  
 大澤ひかる 豊島 菜緒 渡辺 紗生
- 新潟県競書大会  
 新潟県高等学校長協会賞 関 秋菜  
 特選 齋藤多佳子 渡辺 千晶 高橋 哲 関 春菜  
 準特選 吉澤 諒 金井 涼海 生田 竜晨 平山いずみ 藤崎綾衣子
- 将棋 第 28 回全日本高等学校書道公募展 日本書道専門学校賞 (第 3 席) 関 春菜 「臨 李嶠詩雜詠」  
 第 21 回新潟県高等学校文化連盟将棋大会 (全国高文祭富山大会将棋部門新潟県予選)  
 男子団体 1 位 新潟高校 A (渡邊 靖之・桑野 弘英・捧 博人) 全国大会出場  
 男子個人 1 位 高橋 海渡 全国大会出場  
 第 48 回全国高等学校総合文化祭富山大会将棋部門  
 男子団体予選敗退 新潟高校 (渡邊 靖之・桑野 弘英・捧 博人)  
 男子個人ベスト 16 高橋 海渡  
 第 21 回新潟県高等学校文化連盟将棋新人大大会 (全国高等学校将棋新人大大会新潟県予選会)  
 男子個人 2 位 渡邊 靖之 全国大会出場
- 合唱 第 79 回 NHK 全国学校音楽コンクール新潟県大会 銅賞

牧野 榮 策 12回 S45年	17回 S50年	岡部 徹 片桐 登明	丸山 耕 藏 陽田 ナツ子	武者 敏 夫 36回 H6年	46回 H16年
秋間 一 男 阿部 勇太郎	大橋 恒 次 水品 とい	駒形 俊 明 中野 藤 美	30回 S63年	椎谷 郁 子 37回 H7年	大崎 シズ 小柳 トミエ
小野塚 操 小林 京 子	18回 S51年	24回 S57年	小川 春 世 長濱 隆 道	遠藤 輝 久 神林 早 苗	丹後 沙穂子 47回 H17年
小野塚 操 小野塚 京子	立川 佐智子	会田 正 延 稲川 正 行	本多 孝 一 増田 朋 子	38回 H8年	小森 雅 且
小野塚 操 小野塚 京子	諸橋 正 子 矢部 恵三子	今井 榮 作 須貝 幹 雄	31回 H1年	柿崎 フミ子 譽田 敏 二郎	
小野塚 操 小野塚 京子	19回 S52年	高松 昭 夫 25回 S58年	石井 幸 代 金 子	39回 H9年	
小野塚 操 小野塚 京子	勝島 テル子 若林 道 子	渡辺 久美子 26回 S59年	関 テル子 田中 麻紀子	40回 H10年	
小野塚 操 小野塚 京子	20回 S53年	近藤 英 子 清田 輝 雄	田中 麻紀子 宮崎 圭 央	曾我 昭 仁 永原 正 朋	
小野塚 操 小野塚 京子	喜多村 勇 夫 小島 英 二	山崎 喜 男 山田 春 代	32回 H2年	星 恒 市 41回 H11年	
小野塚 操 小野塚 京子	嶋田 博 清野 喜美男	27回 S60年	神田 光 子 山賀 利 夫	小林 幸 子 本間 明 子	
小野塚 操 小野塚 京子	和田 恒 夫 21回 S54年	阿部 幸 一 荒木 恵美子	33回 H3年	畔柳 圭 大滝 智	
小野塚 操 小野塚 京子	清野 義 昭 22回 S55年	安倍 武 勇 石川 孝 子	蕪木 フ ミ 桑原 恒 夫	岡田 武 雄 金野 真 紅	
小野塚 操 小野塚 京子	佐藤 マツイ 種村 昭 久	岡田 忠 雄 熊田 照 隆	丸田 賢 一 渡辺 作 司	42回 H12年	
小野塚 操 小野塚 京子	種村 恵美子 田村 和 男	栗原 隆 人 永野 正 人	渡辺 むつ子 34回 H4年	石原 マサ子 近 雄 介	
小野塚 操 小野塚 京子	戸嶋 孝 孝 外山 トミエ	山田 幸 子 28回 S61年	渡辺 作 司 渡辺 むつ子	44回 H14年	
小野塚 操 小野塚 京子	藤田 栄 六 藤田 キミエ	伊藤 雅 功 中澤 幸 子	35回 H5年	石原 マサ子 近 雄 介	
小野塚 操 小野塚 京子	松原 俊 昭 丸山 秋 一	長谷川 勇 夫 渡辺 ハ マ	伊藤 歌余子 小林 直 樹	45回 H15年	
小野塚 操 小野塚 京子	23回 S56年	29回 S62年	小齋 康 男 福 知 恵子		
小野塚 操 小野塚 京子	青木 和 枝 五十嵐 タツミ	竹内 正 朋			



部活動の練習風景  
(撮影 写真部)



創立百二十周年記念式典の様子

会報へ寄稿される方へ、原稿字数のお願い

原稿の字数は800字から1,000字の間で書いて下さるようお願いいたします。1,000字以上ですと紙面の関係で載せられなくなる場合がありますのでよろしくお願ひします。原稿について字、句を修正させていただくことがあります。

表紙題字：小川 和恵(101回) イラスト：池主 憲夫(68回)

同期会を開催される期の幹事の方へお願い

同期会の開催に合わせて、是非、会費納入者の拡大にご協力下さい。早めに、開催の期日連絡頂ければ、事務局で、同窓会報・会費納入のお願い・振込用紙そしてA4サイズが入る角2の同窓会封筒を人数分用意しておきます。よろしくお願ひします。

● 編集後記 ●

10月20日に挙行されました創立百二十年記念式典は盛会裏のうちに終了いたしました。記録をDVDにいたしましたので、著作権等の問題をクリアできれば皆さんに実費でお分けしたいと考えています。いましばらくお待ちください。

事務局よりお願い

平成24年9月10日に神田錦町郵便局より、年会費(2,000円)のお振り込みをいただきましたが、お名前がありませんでした。通信欄に「転居しました」とご記入があります。お心当たりの方は、事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。



Table with multiple columns of names and dates, organized by birth year from 120th year back to 90th year. Includes names like 大沼萌子, 小川柳鶴, and others.



A large grid of names and dates, organized by year from 75回S42年 to 83回S50年. Each cell contains a name and sometimes a date or identifier.







平成 24 年度 青山同窓会会費納入者

(H 24. 4. 1 ~ H 25. 3. 31)

4 月より 9 月末まで納入いただいた方を掲載しております。10 月以降に納入いただいた方は次号に掲載いたします。会費を納入していただきますと「青山同窓会報」を毎号お届けいたします。申し訳ありませんが、納入のない方には「会報」をお送りすることができなくなってしまいます。本年度未納の方は是非 3 月までにお振り込みくださいますようお願い申し上げます。

平成 25 年度会費納入のお願いと振込用紙は、平成 25 年度総会のご案内と一緒にご郵送いたします。

1 口 1,000 円。できるだけ 2 口以上でお願いいたします。

振込先：郵便振替口座 全日制 00650-7-4455 青山同窓会
通信制 00530-1-74207 青山通教部会

Table listing members and their payment status. Columns include payment type (全日制), graduation year (卒業年), and member name (氏名). Rows list members from 31st to 53rd graduation year.

Table titled '卒業年一覧表' (Graduation Year Overview Table). Columns include payment type (全日制), graduation year (卒業年), and the number of members (人数). Rows list graduation years from T13 to S20.